

Data

政

府は、2025年度までに国と地方を合わせたプライマリバランス（PB）を黒字化する目標を掲げている。岸田文雄首相は23年11月2日の記者会見で、現在もこの目標を変更する考えはないと説明した。

財政健全化に向けて、24年は節目の年となる。なぜなら、政府が23年6月に閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針2023」には、「中期的な経済財政の枠組みの策定に向け、経済・財政一体改革の進捗について2024年度に点検・検証を実施する」との記載があるからだ。

財政健全化の点検と検証は、当初の政府の想定（予測値）と、増税や歳出の効率化などの結果（実績値）を比較して検証することが重要だ。その際、PBや、PBに債務の利払い費を加えた財政収支（FB）のデータが扱いやすい。

そこで、内閣府が毎年2回公表する「中長期の経済財政に関する試算」（1月版・2月版）のデータを、12年度以降の予測と実績値で比較した。すると、興味深いことが分かった。

2024年は財政改革「検証の年」 予測と実績の乖離に目を向け 財政健全化プランを作成せよ

数字は語る

法政大学教授
小黒一正

1.4%

2012年度から現在までのプライマリーバランス (対GDP) 予測と実績の乖離(平均値)

*内閣府「中長期の経済財政に関する試算」を基に作成。1月版・2月版のデータのうち、予測は2012年度から24年度まで、実績値は12年度から23年度までの値を用いた。ただし、14年度の予測値は13年8月版の値、23年度の実績は23年7月版の値を利用

一つは、PB（対GDP比）とFB（同）のどちらも、19年度以降、予測と実績の乖離が拡大していることだ。

もう一つは、PB（同）赤字の予測は平均2・9%、FB（同）赤字の予測は平均4・3%だが、PB（同）赤字の実績は平均4・3%、FB（同）赤字の実績は平均5・6%もあることだ。つまり、PB赤字の実績は予測よりも対GDP比で1・4%、FB赤字は同1・3%も上回っている。

金融政策に目を向ければ、日本銀行の金融政策修正により長期金利が上昇し始めている。この傾向が続けば、国債の利払い費の増加を通じて25年度のPB黒字化のハードルが増し、政府の債務残高（同）も増加の一途をたどるシナリオが濃厚となる。

現在のところ、政府、与党は、25年度までのPB黒字化の目標を堅持している。24年度の点検・検証では、補正予算や減税などの影響を含め、なぜ予測と実績が乖離したのか、その要因に関する分析を行い、堅実な財政健全化のプランを作成することが望まれる。